

【公報種別】登録実用新案公報の訂正
【部門区分】第4部門第2区分
【発行日】令和3年12月9日(2021.12.9)

【登録番号】実用新案登録第3234546号(U3234546)
【登録日】令和3年9月29日(2021.9.29)
【登録公報発行日】令和3年10月21日(2021.10.21)
【年通号数】公開・登録公報2021-041
【出願番号】実願2021-2551(U2021-2551)
【訂正要旨】実用新案権者の住所の誤載により下記のとおり全文を訂正する。
【国際特許分類】

E 0 4 F 15/02 (2006.01)

【F I】

E 0 4 F 15/02 1 0 2 Z

【記】別紙のとおり

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3234546号
(U3234546)

(45) 発行日 令和3年10月21日 (2021. 10. 21)

(24) 登録日 令和3年9月29日 (2021. 9. 29)

(51) Int.Cl.

E O 4 F 15/02 (2006.01)

F I

E O 4 F 15/02 1 O 2 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 9 書面 (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2021-2551 (U2021-2551)

(22) 出願日 令和3年5月19日 (2021.5.19)

実用新案法第11条において準用する特許法第30条第2項適用申請有り 令和3年3月27日、令和3年3月29日、令和3年4月1日、令和3年4月6日に <https://twitter.com/tatamitokyo> にて公開。令和3年4月4日に <https://tokyotatamistudio.com/collections/all> にて公開。

(73) 実用新案権者 521287304

安藤 達広

東京都福生市福生435-4 ポワールビル
102号室

(72) 考案者 安藤 達広

東京都福生市福生ポワールビル102号室

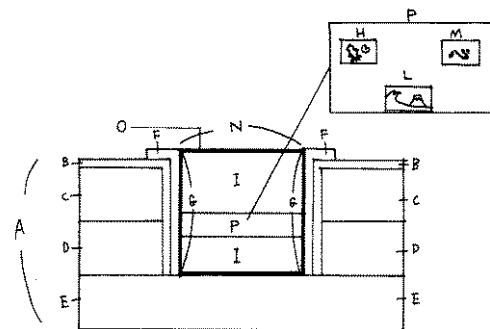
(54) 【考案の名称】 畳

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】造形物をはめ込んで固定できる美しい装飾性を有する畳を提供する。

【解決手段】畳Aは、畳表部Bと畳の芯材部C、Dをくり抜いた凹部Gの収納部Nを1箇所もしくは2箇所以上形成する。この凹部Gの収納部Nに、内部に絵や書や造形物等の表示部を内部もしくは底部に有する装飾部Oを設け、装飾部Oは畳表部Bもしくは畳縁Fの高さと同じもしくはほぼ同一となるように構成する。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

畳表面の内部もしくは畳の端部に掛かる位置に、少なくとも 1 つの凹部状、もしくは貫通穴状の収納部を形成し、該収納部の内部に樹脂やガラス等の透明性のある材料で装飾部を一体化させて設け、該装飾部は内部、もしくは底部に絵や書や造形物等の表示部を有しており、前記装飾部の表面高さが前記畳表面もしくは畳縁部の表面高さと同じもしくはほぼ同一となるように形成したことを特徴とする畳。

【請求項 2】

畳表面の内部もしくは畳の端部に掛かる位置に、少なくとも 1 つの凹部状、もしくは貫通穴状の収納部を形成し、該収納部の内部に、枠部を一体化させて設け、該枠部内に樹脂やガラス等の透明性のある材料からなる装飾部を設け、該装飾部の前記透明性のある材料の内部、もしくは底部に絵や書や造形物等の表示部を有しており、前記装飾部の表面高さが前記畳表面もしくは畳縁部の表面高さと同じもしくはほぼ同一となるように形成したことを特徴とする畳。

10

【請求項 3】

前記表示部が紙等の表面に絵や文字等を表示し、畳表面から見える状態で前記装飾部の内部もしくは底部に位置することを特徴とする請求項 1、もしくは 2 記載の畳。

【請求項 4】

前記表示部が立体の造形物であり、畳表面から見える状態で前記装飾部の内部、もしくは底部に位置することを特徴とする請求項 1、もしくは 2 記載の畳。

20

【請求項 5】

前記表示部が、インキ等からなる絵や文字等であり、畳表面から見える状態で前記装飾部の内部、もしくは底部に位置することを特徴とする請求項 1、もしくは 2 記載の畳。

【請求項 6】

前記装飾部の周縁部の形状が四角形等の直線状、もしくは任意の曲線状であることを特徴とする請求項 1 乃至 5 の何れか 1 項に記載の畳。

【請求項 7】

前記畳が、壁掛けや置物として使用できる請求項 1 乃至 6 の何か 1 項に記載の畳。

【請求項 8】

前記装飾部が、前記畳の収納部に前記表示部を入れた状態で樹脂やガラス等の透明性のある材料を流し込み固化させ、前記収納部、もしくは前記枠部と一体化したことを特徴とする請求項 1 乃至 7 の何れか 1 項に記載の畳。

30

【請求項 9】

前記装飾部が、内部もしくは底部に前記表示部を有する樹脂やガラス等の透明性のある材料で形成されたものであり、前記畳の収納部、もしくは前記枠部にはめ込み一体化したことを特徴とする請求項 1 乃至 7 の何れか 1 項に記載の畳。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は畳表面に樹脂やガラス等の透明性のある材料で装飾部を設け、該装飾部に絵や書等の装飾性を持たせた畳であり、畳として使用できる他に壁掛けや置物等のインテリアとしても使用できる畳である。

40

【背景技術】**【0002】**

畳表面に模様を施した畳や、畳表面に凹部を形成し模様を施した畳を装着するという試みがなされており例えば下記特許文献 1、2 などが知られている。特許文献 1 は畳表面に凹部を形成しこの凹部に表面に模様が形成された畳部分を装着する技術が開示されている。特許文献 2 は畳表面に模様を施した摩耗性印刷物を設置するという技術が開示されている。

。

【先行技術文献】

50

【 0 0 0 3 】

【特許文献 1】特開 2 0 0 8 - 2 0 2 2 2 9

【特許文献 2】実登 3 0 6 9 4 3 3

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【 0 0 0 4 】

特許文献 1 は、模様が形成された畳部分を着脱自在にするとあるが、この方法では畳と一体化せずにズレが生じたり持ち運びしづらくなる。着脱自在で畳と一体化していないことから装飾品としての壁掛けなどの使用ができずインテリアとしての幅が少なくなる。また、装飾部分が畳であり他の畳部分と同じであり装飾部分が目立たずバリエーションが少なくなる。

10

特許文献 2 は、模様を施した摩耗性印刷物を設置するには畳業者でないと模様を設けることが難しく、使用者が自身の絵や書等、もしくは気に入った絵や書等を自由に選択して設けることが難しかった。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 5 】

本考案第 1 の考案は、畳表面の内部もしくは畳の端部に掛かる位置に、少なくとも 1 つの凹部状、もしくは貫通穴状の収納部を形成し、該収納部の内部に樹脂やガラス等の透明性のある材料で装飾部を一体化させて設け、該装飾部は内部、もしくは底部に絵や書や造形物等の表示部を有しており、前記装飾部の表面高さが前記畳表面もしくは畳縁部の表面高さと同じもしくはほぼ同一となるように形成したことを特徴とするものである。

20

【 0 0 0 6 】

本考案第 2 の考案は、畳表面の内部もしくは畳の端部に掛かる位置に、少なくとも 1 つの凹部状、もしくは貫通穴状の収納部を形成し、該収納部の内部に、枠部を一体化させて設け、該枠部内に樹脂やガラス等の透明性のある材料からなる装飾部を設け、該装飾部の前記透明性のある材料の内部、もしくは底部に絵や書や造形物等の表示部を有しており、前記装飾部の表面高さが前記畳表面もしくは畳縁部の表面高さと同じもしくはほぼ同一となるように形成したことを特徴とするものである。

【 0 0 0 7 】

本考案第 3 の考案は、前記表示部が紙等の表面に絵や文字等を表示し、畳表面から見える状態で前記装飾部の内部もしくは底部に位置することを特徴とするものである。

30

【 0 0 0 8 】

本考案第 4 の考案は、前記表示部が立体の造形物であり、畳表面から見える状態で前記装飾部の内部、もしくは底部に位置することを特徴とするものである。

【 0 0 0 9 】

本考案第 5 の考案は、前記表示部が、インキ等からなる絵や文字等であり、畳表面から見える状態で前記装飾部の内部、もしくは底部に位置することを特徴とするものである。

【 0 0 1 0 】

本考案第 6 の考案は、前記収納部の周縁部の形状が四角形等の直線状、もしくは任意の曲線状であることを特徴とするものである。

40

【 0 0 1 1 】

本考案第 7 の考案は、前記畳が、壁掛けや置物として使用できることを特徴とするものである。

【 0 0 1 2 】

本考案第 8 の考案は、前記装飾部が、前記畳の収納部に前記表示部を入れた状態で樹脂やガラス等の透明性のある材料を流し込み固化させ、前記収納部、もしくは前記枠部に一体化したことを特徴とするものである。

【 0 0 1 3 】

本考案第 9 の考案は、前記装飾部が、内部もしくは底部に前記表示部を有する樹脂やガラス等の透明性のある材料で形成されたものであり、前記畳の収納部、もしくは前記枠部に

50

はめ込み一体化したことを特徴とするものである。

【考案の効果】

【0014】

本考案第1の考案は、請求項1に記載した技法を用いることによりあらゆる物を畳と一体化させ美しい畳を作成することができデザインの幅がより広がる。

【0015】

本考案第2の考案は、請求項2にあるように枠部を設けることにより樹脂の漏れなどを防ぐことができる。また、枠部内に予め装飾部を作成することができるので作業効率上がる。

【0016】

本考案第3の考案は、請求項3にあるように絵画や書道家の方が書いた字を装飾部として設け畳と一体化させることで畳と見た目、質感が異なるので装飾性が高まる。また額縁のような使用の仕方も可能である。

【0017】

本考案第4の考案は、請求項4にあるように立体の造形物を使用することでより現実的な表現ができるようになる。また使用者が気にいったあらゆる造形物を自由に使って表示することが容易にできる。

【0018】

本考案第5の考案は、請求項5にあるように装飾部の表面にインキ等で直接絵や文字を書くことができるのであらゆる表現方法ができるようになる。

【0019】

本考案第6の考案は、請求項6にあるように収納部の周縁部が様々な形で表現できるようになりデザインの幅が広がる。

【0020】

本考案第7の考案は、請求項7にあるように畳を壁掛けや置物として使用することができるのでインテリアとして部屋の装飾に使うことが可能である。

【0021】

本考案第8の考案は、請求項8にあるように樹脂やガラス等の透明性の材料を使用することで表示部が綺麗に現れ装飾性がさらに高まる。

【0022】

本考案第9の考案は、請求項9にあるように装飾部を収納部にはめ込み畳と一体化させることで、収納部にはめ込む前に装飾部を作成することができるので、より創造の幅が広がる。

【図面の簡単な説明】

【0023】

【図1】本考案の畳の断面構造を示す図

【図2】本考案の畳の断面構造を示す図

【図3】絵画や文字をはめ込んだ本考案の畳

【図4】部屋に本考案の畳を敷き込んだ図

【図5】壁掛け仕様の図

【図6】畳の多様な形態の図

【考案を実施するための形態】

【0024】

畳表部と畳芯材部をくり抜いた凹部に絵画をはめ込み樹脂で固めることにより、アートな畳を部屋に敷き込むことができる。また書道家の方が書いた習字をはめ込み壁掛けにすることで和室の床の間や玄関などに装飾することができる。

【実施例】

【0025】

以下図面にしたがって実地例を説明する。

図1は本考案の断面図である。畳表Bと畳ボード上C、畳フォームDをくり抜き凹部Gの

10

20

30

40

50

収納部 N を形成する。畳表 B と畳縁 F で凹部の G 収納部の側面部全体もしくは一部まで覆う。凹部 G の収納部 N に、樹脂 I を収納部 N の高さの 1 / 4 程度入れて固める。

その後、造形物 H や絵画 L、書 M などあらゆる表示部 P をはめ込み、樹脂 I を流し込み固化させて、前記収納部の側面と一体化させて装飾部 O を設ける。図 1 では樹脂 I を使用したが、他に、ガラス J、アクリル K を使用することもできる。表示部 P、樹脂 I もしくはガラス J、アクリル K 等の順番はどのようなものでも良く、表示部 P は装飾部 O の下部に設けることもできる。また、樹脂 I を収納部 N に流し込み固化させることで装飾部 O を設けると、収納部の側面は畳縁 F があり、その表面はわずかな凹凸形状となっている。この流し込む樹脂 I は、この凹凸形状に沿うように流し込まれ固化するので、凹凸形状とかみ合い、ずれたりすることなく一体化することができる。この時、装飾部 O と畳縁 F の高さはほぼ同一とする。また、本考案では畳縁 F を設けなくても良い。その場合は、装飾部 O は畳表 B の高さとはほぼ同一とし、収納部 N 内の畳表 B とで一体化する。

10

【 0 0 2 6 】

本考案の第 2 の実施例を図 2 により説明すると凹部 G は畳表 B と畳ボード上 C、畳フォーム D、畳ボード下 E を全てくり抜く場合の図面である。この時は貫通穴状の収納部 N となる。この場合は球体のような造形物 H を表示部としている。造形物 H を内部に有し、前記収納部 N の形状と寸法に一致する樹脂 I もしくはガラス J、アクリル K 製の装飾部 O を設けておく。装飾部 O を前記収納部 N に嵌め込み、収納部 N の側面と一体化させる。この時、装飾部 O と畳表部の高さはほぼ同一とする。この両部材の一体化は、装飾部 O の横寸法を収納部 N の横寸法と同じか少し大きくしておき、嵌入させることで、摩擦で一体化させることができる。他に、装飾部 O と収納部 N との間に隙間がある場合は、その隙間に接着剤を使い一体化させる方法や、隙間に樹脂 I もしくはガラス J、アクリル K 等を流し込んで固化させて一体化させることもできる。

20

【 0 0 2 7 】

図 3 は絵画や文字をはめ込んだ図である。図 3 の左を図 3 (1)、図 3 の右を図 3 (2) として「図 3 (1) は表示部 P を絵画として収納部 N の中に収納する。表示部 P は紙に絵を描いたものであり、収納部 N の形状と寸法にもほぼ等しい。そして、表示部 P を収納した収納部 N に透明な樹脂を畳表と同じ高さになるように流し込み固め、畳と一体化させる。

「図 3 (2) は表示部 P を書として収納部 N の中に収納する。表示部 P は紙に文字を書いた書であり、収納部 N の形状と寸法にもほぼ等しい。そして、表示部 P を収納した収納部 N に透明な樹脂を畳表と同じ高さになるように流し込み固め、畳と一体化させる。なお、本考案の表示部 P は収納部 N の寸法より小さくすることもできる。そうすることで、表示部が透明な装飾部の中で浮かんでいるような効果を得ることができる。さらに、表示部は収納部の底や表面だけではなく、中間に設けることもできる。この場合は、装飾部を設ける際に、収納部の途中まで樹脂やガラスを流し込み、一旦固めた状態で表示部を入れ、その後、さらに樹脂やガラスを流し込み固定することで設けることができる。そうすることで、表示部が装飾部の中間で浮かんでいるような効果がさらに高くなる。

30

【 0 0 2 8 】

図 4 (1) の図は和室に畳を敷き詰めた場合に本考案の畳を使用した図である。1 畳もしくは 2 畳以上に装飾を施した畳を使用して和室もしくは部屋に敷き詰める。装飾を施した畳は図 3 で説明した畳でも良い。あるいは収納部 N の中に樹脂を流し込みその樹脂に直接絵や模様、文字を書いた表示部 P でも良い。また、図 (2) の断面図で示すように、装飾部 O は、木製等の底のある四角形の枠部 Q 内に、まず枠部 Q の半分程度の高さまで樹脂 I を流し込み固化させ、この固化した装飾部 O の表面に、インキ等で絵等の表示部を設ける。そして、その上からさらに枠部 Q に樹脂 I を流し込み固化させる。この時、枠部 Q、装飾部 O と畳表部との高さはほぼ等しくする。この構成にすることで、枠部 Q の中で透明な装飾部 O の内部に表示部の絵等が浮き上がって見え、例えば、絵を金魚とすると、透明な装飾部内を泳いでいるように見え、装飾性はさらに高まる。また、枠部 Q 内で装飾部 O を作ることができるので作業性が良くなる。枠部 Q と装飾部 O は、枠部の内部に装飾部を別途作り、その後、畳の収納部 N 内にはめ込むこともできるし、枠部 Q を畳の収納部にはめ

40

50

込んでから装飾部 O を設けることもできる。また、枠部 Q と畳の収納部との一体化は、枠部 O の横寸法を収納部 N の横寸法と同じか少し大きくしておき、嵌入させることで、摩擦で一体化させることができる。他に、枠部 Q と収納部 N との間に隙間がある場合は、その隙間に接着剤を使い一体化させる方法や、隙間に樹脂 I もしくはガラス J、アクリル K 等を流し込んで固化させて一体化させることもできる。枠部 Q は底を設けることもできるし、底がない側面の枠だけとすることもできる。

【 0 0 2 9 】

図 5 は本考案の畳を壁掛け仕様にして設置した図である。図 5 の畳は図 3 (2) で説明した本考案の畳の裏部分に穴を開け壁につけたネジもしくは物体を支えられるように工夫した物を取り付け畳を設置する。

10

【 0 0 3 0 】

図 6 は本考案の畳の多様な形態を示す図である。図 6 に示すように曲線状に凹部を形成してもよい。また凹部の外形は直線・曲線・直線と曲線の組み合わせにより構成してもよい。畳は 1 畳や半畳あるいはそれ以外のサイズでもよい。

【 符号の説明 】

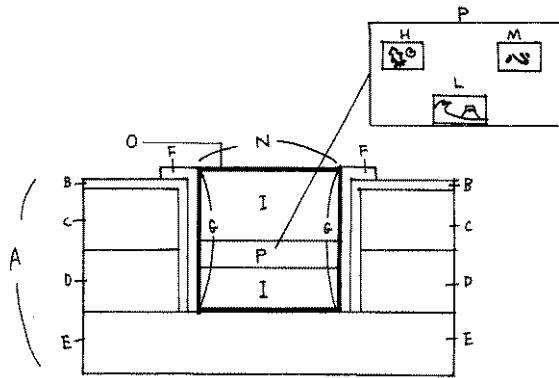
【 0 0 3 1 】

- A 畳
- B 畳表
- C 畳ボード上
- D 畳フォーム
- E 畳ボード下
- F 畳縁
- G 凹部
- H 造形物
- I 樹脂
- J ガラス
- K アクリル
- L 絵画
- M 書
- N 収納部
- O 装飾部
- P 表示部
- Q 枠部

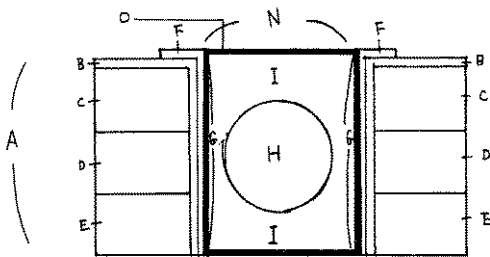
20

30

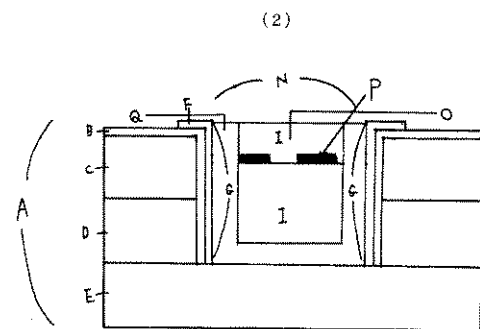
【図 1】



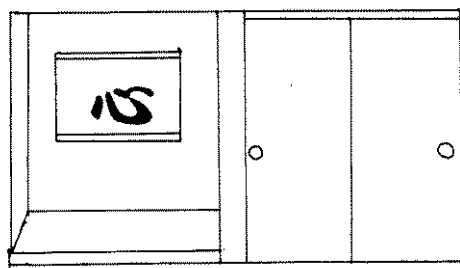
【図 2】



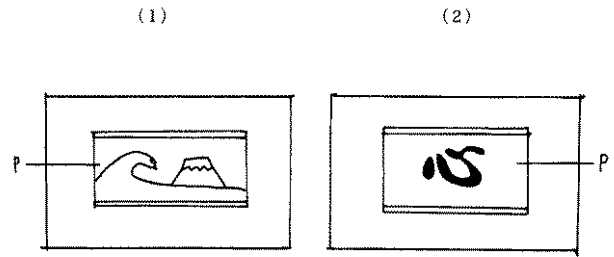
【図 4 b】



【図 5】

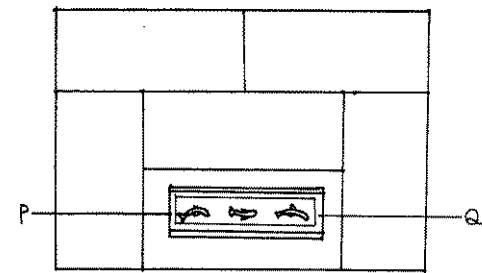


【図 3】



【図 4 a】

(1)



【図 6】

